



時事編

日本軍の勢は寒氣の加ふると共に益々盛んにして来るに豚尾兵と襲破り彼等が最後の命綱として頗る切つたる威海衛をも物の美事に攻落し今や將に北京城下に押寄せて滿清政府を一蹴の下に蹴飛し去らんとするの色あるにぞ兼て支那帝國の消長に就て莫大の利害ありと稱する英國人の中には心配盡く能はず只管日本の勝利を限制して支那を塗炭に數はんどを慾する者もあるよし例へば左に掲ぐる上海マルキュリーの論説の如きは即ち威海衛没落の以前に早く既に此事ある可きことを期して恐懼の餘りに日本に向て脅嚇的の忠告を與へたるものに外ならず

ば山東省の攻撃は戦争の終結を遠めざるのみか益するに至ては全く
攘撫と目的とするものたるの事實を證明す何となれば
爲めに起したる戰争の目的を貫徹するの手段として
大かしくするの傾向あればなり若しも日本軍にして
一蹴難く北京に向て進行するならば是れ即ち主義の
偏邪か想す可しと雖も中途に停滞して敵の艦隊を捕
獲し若しくは土地を占領せんとを企るに至ては全く
其目的を異にするものと認めざるを得ず日本は既に是
敵を足下に踏附ければ尙ほ永く其頬を押へて自か
ら征服者たらんと欲する者なり然りと雖も歐洲諸國
に於て既に日本の眞の目的を發見したる以上は決
て之を等閑に看過するふとなかる可し或は彼等は
力無能なる現在の北京政府を此まに存立せしむ
ふとを欲せざるやも知る可らずと雖も然れども是
角に日本をして征服者の位置を得るふとなからし
る比附じて歐洲諸國の利益なるふと敢て疑ふ尙ら
而して事の本體として爰に至らしめたるは日本の
失策なり現に西洋諸國の奸情は次第に日本を離れ
しむる勢を正勝ちるすれば正當公理の如きは一
度も無し可なりとの點には勿論と雖も同意する
事無く左れ日本が其の本體にて西洋諸國が
するの外に據する中國大陸は近々在り

事に止まり決して其他に望なきは我輩の斷じし保證する所なり然るに西洋の國々が能く其邊の實力をも辨へ漫に日本の侵略的方策を恐れ氣遣ひ唯一圖に日本をして戰勝の利を空みせしめんと勉るみどもあらんには或は是れに由て以て支那政府の歎心を得るの利益はあらんかなかれども日本人が斯る餘計の干涉を悦ばざるは分り切つたるみとなれば此際歐洲國が所謂兵力的干涉を實施せんとせば先づ日本の好意を犠牲にして以て支那の歎心を求めるの覺悟なから可らず目下英佛露獨等の諸國が果して斯る不廉の價を拂ふても尙は支那の好意を買ふの必要ありと思考するや否や我輩の甚だ疑ふ所なり又マルキリイ記者は「西洋諸國の好情は次第に日本を離れつゝあり」と稱すれば我輩は之を信ぜざるのみならず近來歐洲二三の國が頻りに我國にて好意を示し何とかして我れを味方として以て他日東洋に大利を占むるの助と爲さんみどに汲々たるは我輩の確かに聞知する所なり故に若しも不幸にして我國が外洋に干渉に妨げられ敗闘たる支那に對して終局の目的を達するも多と骨ざる虞かるに於ては我れば最後の手段として右二三の國と同盟の約を結び以て我權益を保護するの一策あるのみ我輩が過日紙上に日本は既に前兩國の間に行はるも權力の平均を支配して自家の利益を謀る可との説を爲せしは即ち事態なりケルキリ記者も此段聞く世界の大勢を觀察し餘計の妄言をばほんとして却て自から誤るからんみと我輩の切に勧告する所なり

區々たる上海一新聞の説、固より取るに足らざるのみ
か我軍隊が山東省に上陸するを見て直に北京を衝くも
のとは目的を異にするなど云ふに至ては實に抱腹の次
第なれども其立言中頻りに日本が支那を征服するの意
あらんふと疑ひ歐洲諸國の力を借りて以て日本の勝
利を限制せんと欲するの語氣あるは自から英國人中一
部分の意志を代表するものと認めらるれば一通り之を
譲職せんに凡そ如何なる種類の競争に於ても勝者の手
中に利益の落るは當り前の事にして怪しみに足らず彼
の "To the victor belong the spoils" (獲物は勝者の有
に歸す)なる語は之を政黨の争に應用すれば必ず勝か
程當ならざるが如くなれども實際の戦争には昔も今も
此字義の通りに實行して假借するとなきの常なり現に
英國が世界中到る處に版圖を有して「我所領地には太
陽の沒する所なし」な詩誇稱するみを得る所以の
ものは畢竟するに英國人が昔より戦争の獲物を收るに
當て迷惑する所なかりしが爲めのみ然るを今日偶々日
本が支那と戰て我勝利の報聞を得んとするに際し英人
の身分として彼れ是れ非難がましき論評を試るとは身
弱から自身の舊を忘却したるものと云ふ可し左れば今
回戦争の結果として日本が支那に對して如何なる請求
を爲すも局外の國々が之に就て異存を唱ふるの理由
は更になしと雖も事の實際に於て日本は決して英國が
印度を横領したるが如くに支那四百餘州を切從へて我
物と爲すなべの大望を抱く者に非ざればアルキーリ翁
記者も此一點に就ては安心して可なり蓋し日本が此國
に飽くまでも支那を窘しめて眞實に心の底より平和をして
乞ふに至らしめんふとを期するものは唯彼れをして今
度の一舉に由り日本の大實力恐る可きかを知らしめ今後
再び我れに向て無禮の舉動なからしめんが爲めにして
詰る所、我大目的は東洋の平和を永遠に維持するの

○北洋艦隊殆ど滅亡
敵艦四隻の撃沈

釜山二月八日午後十時報

海岸の諸砲臺は皆沒落した
るも劉公嶠と日嶠は敵艦固
く守りて落ちず三日前第三遊擊隊同午後第三遊擊隊敵に近寄り鑿戦す

して即死三名負傷五名あり
四日の拂曉第二、第三水雷艇隊都て十隻にて敵艦を襲撃し九號艇は敵の水雷艇に紛れて敵艦定遠に近寄り水雷二發を發射して

雷定遠と沈められ。而して沈められ。

即死四名、負傷四名あり
二十二號艇も亦坐礁して死
傷者あり
五日の夜第一艇隊三隻にて
又敵艦と襲撃し
來遠威遠外一艦を擊沈
したり

東の向信外の的を利歐アソニモリト
坪井旅順口防守司令長官より本日午前發にて左の電報ありしと聞く

廣島二月八日午後入時特派員發

○敵の水雷艇滅亡。

特派員宮本芳之助 軍艦松嶺於て

本日午前九時西京丸の齋
來りたる伊東聯合艦隊司令
長官の報告左の如し
昨日電報せし通報敵の砲臺
砲臺の際敵の水雷艇十餘隻
出で来る因て第一遊撃艦隊

軍艦松嶺
特派員

周易

○敵の水雷艇滅亡

廣陽二月八日

本日午前九時西京丸の齋
來りたる伊東聯合艦隊司令
長官の報告左の如し
昨日電報をし通す敵の砲
砲擊の際敵の水雷艇十餘隻
出で来る因て第一遊撃艦隊

○北洋艦隊殆々滅亡
敵艦四隻の撃沈

として之を消
十二隻小蒸汽
灣の龍門港キ
て終て破壊其

り。又鮫嶋第一遊
りの報告に依
通行の際同遭
ゆべからざる